

令和元年度 第1回 とみやわくわく市民会議 実施報告書



富谷市総務部市民協働課

テ マ	とみやの市民協働について ～わたしたちが描く理想のカタチ～	
日 時	令和元年7月27日（土）午前9時30分～午前11時30分	
場 所	富谷市まちづくり産業交流プラザ（TOMI+）	
座 長	宮城大学 事業構想学群 准教授 佐々木 秀之	
参 加 者	一般参加	9名
	関係機関	1名
	宮城大学学生	3名
	富谷市	6名（市長、副市長、市民協働課4名）
	傍聴者	3名

実施状況

時間	内容	状況写真	
9:30～ 10:00	村インテ-ション ①自己紹介 ②施設見学	 	
		 	
10:00～ 11:30	会議 ①市長あいさつ ②座長あいさつ ③情報提供 （市民協働課） ④スライド上映 ⑤意見交換 （グループワーク） ⑥座長まとめ ⑦市長感想	 	
		 	

情報提供（市民協働課） ～別紙「令和元年度第1回とみやわくわく市民会議資料」に基づき説明～

はじめに、富谷市が進める「市民の思いを協働でつくるまち」というフレーズは、富谷市の総合計画のなかで、富谷市の将来像「住みたくなるまち日本一」を実現するための基本方針の一つに掲げられているものです。また、富谷市がまちづくりを進めていくうえで、基本的な考え方としているのは、地域の思いを地域のみならずでかなえる協働のまちづくりということです。

それでは、なぜ協働のまちづくりかということですが、資料中段の、「背景」にまとめています。このなかで特に強調したいのは、富谷市では従来から男女、世代を問わず多くの市民の皆さんが様々な分野、様々な形で地域のために活動し、活躍しているということです。

続いて、市民協働のまちづくりについての市の取組と考え方については、いくつか主な取組を記載しています。特にまちづくりの担い手となる人材や団体を育成、支援していくための仕組みづくりについては、具体的には、市内に6カ所ある「公民館」や、社会福祉協議会が運営している「ボランティアセンター」、それから「TOMI+」を拠点とし、様々な支援が行われています。まちづくりの基本となるルールづくりの整備検討については、今後、市民協働をこれまで以上に推進していくためには、市民の皆さんと市がお互いに共通理解できるもの、また、方向性を共有できるものが必要になります。このことは市民の方からもご意見をいただいているものであり、令和2年度中に、ルールを策定することで現在進めております。

次に、市民協働のまちづくりに対する市の考えをお伝えしたいと思います。市民協働のまちづくりは、「市と民の協働による市政運営」と、「住民主体の地域づくり」を足し合わせたものと捉えております。そして、市民協働のまちづくりを進めるうえでは、この二つのことを同時並行的に進めていくことを描いています。

まず、「市と民の協働による市政運営」ということですが、富谷市の総合計画のなかでは、市は様々な主体との協働を進めていくということにしています。このことは、市民と市の協働ということだけではなく、企業や大学なども含めた様々な民間の主体とも協働していくという考え方です。

そして、もう一つは、「住民主体の地域づくり」ということで、このことは住民自治さらには、地域コミュニティということにも結びつくかと思えます。特に、富谷市では、町内会を中心とした地域コミュニティ活動を中心に、さらには、生涯学習、社会教育を通じた地域の人材、地域の力の育成に力を入れてきたという、歴史的背景が際立っていると思えます。

最近では、地域共生、共助、あるいは地域の支え合いということが言われております。住民主体の地域づくりということは、今後ますます重要な取組になるものと捉えております。

スライド上映（座長） ～スライドに基づき説明～

協働という言葉の語源は、1970年代にアメリカのヴィンセント・オストロムという学者がコ・プロダクションという概念を提示し、それを1990年代に荒木昭次郎という学者が定義しました。

最初は、住民と自治体職員という2つの主体を意識し、これまで住民と自治体職員にあった距離を近め、心を合わせて、力を合わせて、助け合って住民福祉に有用であるという判断ができた場合に、一緒になって活動していくことが重要だとされていました。

その後、東日本大震災の経験も踏まえ、住民と自治体職員というだけではなくて、異なる複数の主体が互いに共有可能な目標を設定し、その目標を達成するために対等な立場に立ち、自主自立的に交流して一緒に相乗効果をあげて目標を達成していくこと、異なる複数の主体が絡み合うことが重要だということで、学術的にも定義が変わってきています。

仙台市は全国的にも市民協働をトッランナーとして進めてきましたが、最近では、市と民、行政と民だけではなく多様な主体間だということ、学術的なものと合わせて市民協働という言葉ではなくて協働という言葉に置き換えています。

仙台市では、まちづくりの手引きを13年前に作ったのですが、文字だけのものと、13年も経つとあまり使われなくなってきていて、どうしたら良いかということが諮られたときに、実践事例を取材して、手引きと一緒に合わせて見ることができるのではないかとということで、事例集を作りました。

富谷も、ここに来ている皆様をはじめ活発に活動を展開されていますので、ルールづくりをされる場合にそういう活動を事例として入れていただくと、より分かりやすいものができるのではないかと思いますし、富谷は富谷のスタイルが見えてくるのではないかと思います。

協働とは言っても何から何まで全部協働するということは無理で、市民だけでやったほうが良いもの、力の関係のバランスがあるもの、あるいは行政だけでやったほうが良いものということで判断しながら協働が進めてられてきたわけですが、色々な形でそれぞれの得意分野を活かし合うことが求められているということをご紹介しておきたいと思います。



◎ 活動内容による費用減免

私たちが活動してありがたいと思うことは、私たちのボランティア団体は、公民館などの市の施設を使うときの費用減免対象にはなっていませんが、子育て支援課や市民協働課と協力してイベントをやるときは、活動に対して、会場を費用減免にいただいています。

私たちのような団体は、毎年助成金を申請し、それが毎年もらえるわけではないので、期限が切れれば他を探してやっているなかで、対象にはなっていないけれども、その活動内容によって費用減免をしていただくというシステムを確立させていただくと、とても活動しやすいと感じています。

◎ 身近な人材リスト

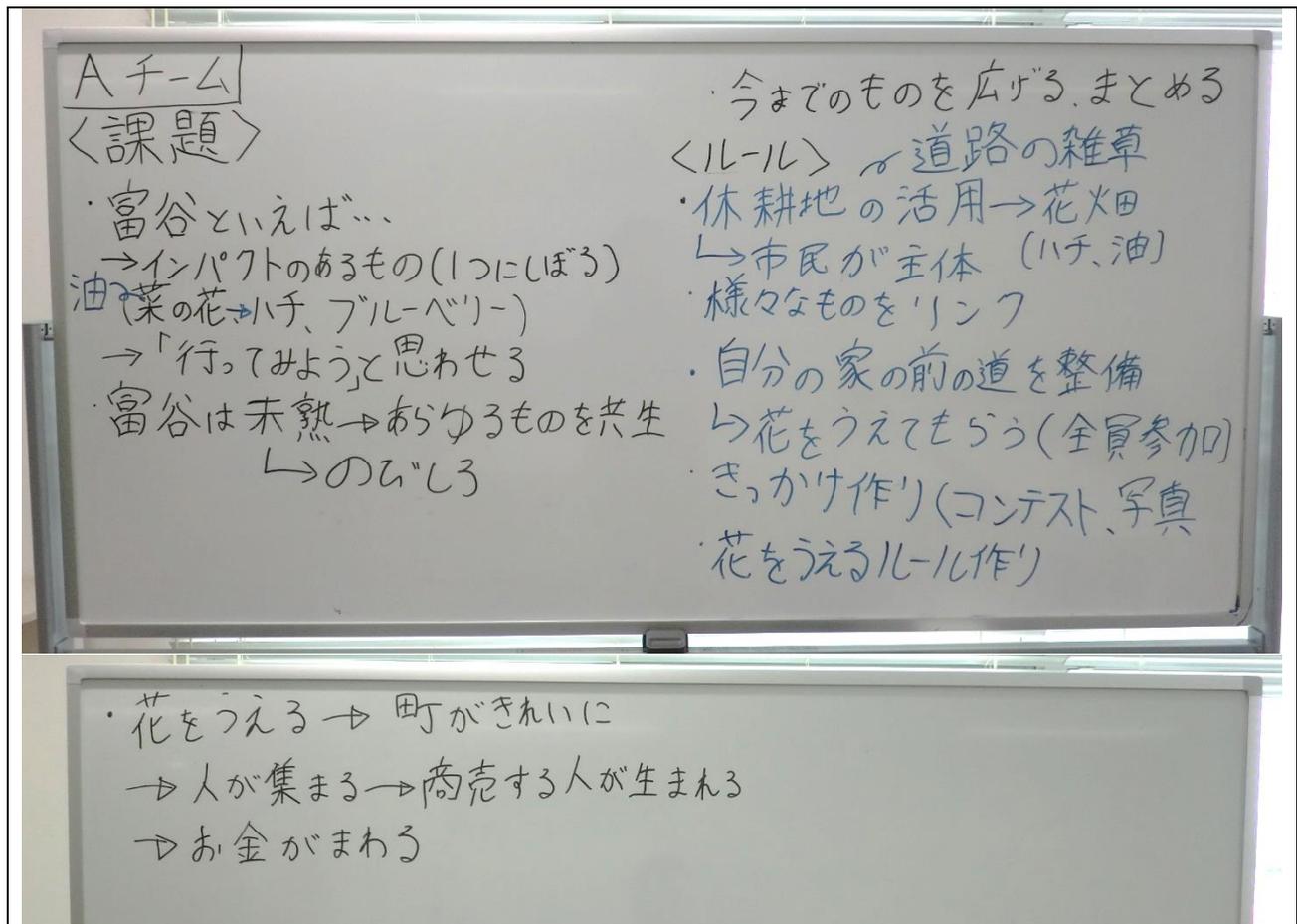
町内会の総務部長をしていた頃に一番困ったのは、色々なことをやるときに、このことについて詳しい人やできる人は誰かということが、最初はさっぱり分からなかったことです。皆さんが色々な技術を持っており、それは時間が経ってみると当然分かってくるのですが、色々なことをやりたいときに、自分の身近にいる人がどんな特技を持っているのかが分かれば非常に催し事をやるときにうまくできるのかなということを最近はつくづく思っています。

◎ 資金繰りなどの自助努力

私たちのボランティア団体は、どうしても活動資金の問題があり、人件費はもちろんボランティアですが、活動すると必要最小限のお金はかかります。助成金をいただいています、それだけに頼るのではなく、自助努力や自分たちでなんとかするためにはどうしたらいいのか、何か他にできることはないかというのが、今の課題になっているので、色々な立場の人から色々なご意見いただければ、とてもありがたく思います。

◎ 子どもたちの未来を見据えたまちづくり

私たちの活動のなかで、色々課題はありますが、そのなかで大人だけではなく子どもも楽しめる活動を念頭に置きながら考えるようになりました。特に、私たちがやっているなかで例えば、危険を伴う道具なども使いながらやっていますが、子どもも一緒になってその道具を使ってやっています。本来であれば、子どもを危険な目に合わせるという機会は少なくなってきたのですが、大人たちが側にいて使わせることによって覚えてくれます。そういったチャンスを大事にしたいと思えますし、それで怪我や失敗をするということもあると思いますが、それを咎めるのではなく、しっかりとリカバリーできるような人づくりなどを心がけてやっていけば、今やっていることは小さいことですが、やがて子どもたちが大人になる10年後、20年後にもこれがどんどん生きてくるのではないかと思います。今、富谷市が進めているまちづくりというのは、私自身は、子どもたちが大人になった頃にだんだん出来上がってくるのではないかなと思っています。



Aチーム

☆花いっぱい綺麗なまちへ

<課題>

全国から見て、富谷市が「ブルーベリーのまち」と知っている人が少ないと思う。

<アイデア等>

- ・菜の花などの花を植える。
- ・休耕地や植樹帯などに、市民主体で花畑や花壇を作り、雑草の抑制をする。
- ・自宅前の植樹帯を整備し意識付けをする。
- ・市民主体で実施するきっかけづくりとして、富谷市で花の写真コンテストなどを開催する。
- ・様々なことと連動して活用する。
- ・道路や公園の法面など、よく見えるところを重点的に活用する。

**** Aチームの発表 ****

富谷といえば、皆さんのなかではブルーベリーやはちみつなど色々と連想されることはあるかと思いますが、これは全国から見て、富谷はブルーベリーのまちと知っている人がどれくらいいるのかというところで、まだまだ富谷はいい意味で未熟で、あらゆるのびしろがあるというまちと捉え、もう少し熟成させたいという意味で、菜の花（花）を植えようという意見が出まして、それについて深めていきました。

例えば、富谷市にも休耕地（耕作放棄地）や国道・県道・市道、様々な植樹帯もありますが、そういったところに花畑ないしは花壇を作っていくことによって、例えば雑草が抑制できるとか、市民主体でやるということによって全員参加でやっていきたいと思いました。あと、自らやるということは、例えば自分の家の前の植樹帯が雑草であふれかえているところが結構あると思いますが、そこを整備すると意識付けにもなるということでやっています。

とにかくこれを皆さんでやるには、どうしたら良いかということで、ぜひ富谷市さんに、町内会単位が良いのかブロック単位が良いのか分かりませんが、例えば花植えのコンテストを開くとか、あとはそれを写真に収めて写真のコンテストをやるとか、色々とそういった動機付けやきっかけづくりをするものを作っていただいて、富谷市民全員巻き込んで、老若男女、子どもだったら幼稚園や保育所くらいから、種まきや草取りができると思います。障がい者の方もいらっしゃるかと思いますが、そういった人たちだって車椅子にのったまま種植えなどもできます。

そういったものに皆さんに参加していただいて、花を植えればこれがやがて、菜の花であれば雑草の抑制もそうですし、それを見て人も集まってきますし、あとは収穫となれば菜の花を摘んで持って帰る方もいらっしゃれば、菜種油にかえるという方法もありますし、富谷の養蜂の蜜源にもなりますし、活用していけばどんどん広がりが見えるのではないかとということで、とにかく、花をいっぱいすることで課題を解決しようということで話がまとまりました。



Bチーム

◎まちづくりの課題

- 防災セミナーに若い人(少)
- ↓
- ボランティア活動も(4050代)
- とまり処のつながり
- 例. 除草活動はシニアばかり

○市からのサポート増やしたい

○地域弱点の理解度

★(若)と(高)のつながり

例 PTA, 地域活動など

- 市にも意識を高めてもらいたい
- 学校にもつながりは使える
(伝える・集める・動く)
- ★子+親+地域

○スポーツを使う

市が親・地域を促す

★集える場所

- 館の開放
- おびるプレイパーク
- 地域の食堂

キーワード×E

- スイーツ
- お茶
- ★「顔みりか
更に顔しりに」

Bチーム

☆多世代のつながりで地域の基礎力を強化

<課題>

まちづくりの活動は、若い世代の参加者が少ない。

<アイデア等>

- ・高齢者ばかりでなく、みんなで地域の弱点を理解すると良い。
- ・多世代のつながりが地域を活性化するポイントになる。
- ・学校が主体となって地域をつなげていく。
- ・スポーツを通して親子を集めて、地域を活気づける。
- ・街角カフェを発展させ、参加者の年齢層・性別を多様化し、つながりを作る。
- ・富谷産のスイーツやお茶を提供できるような街角カフェがあると良い。
- ・顔見知りか更に顔知りになるという関係を作り、地域の基礎力を強化する。

＊ ＊ Bチームの発表 ＊ ＊

Bチームは、非常に自立的な組織が多くて、行政に頼るようなお話はほとんど出ませんでした。

まちづくりの課題としては、例えば防災セミナーに参加する人やボランティア活動にしても同じですが、なかなか若い人の参加が少ない。若い人の世代は色々あるのですが、小学生から40～50代の働き盛りの人までということで、理解していただければいいかと思います。こんなことがあるので、隣近所の付き合いやつながりが、高齢者ばかりになってしまっているのが大きな課題ですね。お互い地域で生活しているので、地域のなかの弱点を理解しながらやっていくと、もう少し良い富谷に、良い地域になるのではないかということが課題でした。

課題を解決するために、どんな方向性が見えるかということ、若い人と高齢者の世代を通したつながりというのが一番大事な話で、これについてはPTAとかあるいは地域活動を通しながら、つながりを強化していくことが一番地域を活性化するポイントになるのではないかと思います。そのなかには、学校とのつながりが使えるということで、学校が主体となって地域をつなげていく。例えば学校行事に色々な方が参加して、具体的には防災のフィールドワークだと交通事故が心配になります。その時に学校側から、例えば見守り隊などに要請があってそのような人たちが一緒に生徒たちと歩く。そうすることによって地域とのつながりもできるし、歩きながら地域の情報を生徒に伝えることもできます。そのほかにスポーツを通して親子をどんどん集めて、地域を活気づけていく。

もう一つ具体的な例としてあがったのが、地域の街角カフェを実践している場所がありまして、そこでは街角カフェの前に町内会館の開放をする。誰がいつ来ても良い形で、その最終的な場所が街角カフェになった。これは10時～15時頃までやっていて、色々な方が集っている。これをもう少し発展させると、例えば地域の食堂とかにして、夕方まで時間を延長するとか、そうするともう少しいろいろな年齢層、性別など、男性の参加が少ないということで、それをやると非常につながりができるのではないかと。

キーワードとして、富谷の特産スイーツやお茶を提供できるような街角カフェがあると良い。最終的には、顔見知りの方が更に顔知りになるという関係を作り、地域の基礎力を強化していく。それを強化することによって、まち全体が活性化して、非常に住みやすくなるまち、あるいは住みやすくなる富谷市になるのではないかというようなことが結論です。



〔チーム
課題〕

存在の存在 → 伝える. 輪が広がれば...!

- 参加のしやすさを若者に伝えられない
→ 先入観、無関心、視野の狭さ

入りやすい雰囲気づくり (ex) わくわく会議 ← 固い

市だからこ
でできること

→ 効率的なPR
の場づくり

- 資金 人材 (適格場所)

市民協働課

「後00で完了!」

X お金出せ

○ 情報

地域「ありがたい」

というイベント

(ex) 引越し子育て

情報、つながりの場 ← 市民がアポイント

Cチーム

☆参加しやすい雰囲気づくりと活動の資金・人材確保

<課題>

活動への参加のしやすさを住民に伝えられない。また、資金繰りや場所にあった人材を探したい。

<アイデア等>

- ・ 先入観や無関心、視野の狭さが参加しにくい原因ではないか。
- ・ 参加しやすい雰囲気づくりが必要。
例) とみやわくわく市民会議の「わくわく」は良いが、「会議」とつくと硬いイメージがあり、特に若い世代はなかなか参加しにくい。
- ・ 参加している人たちが知り合いを誘う。
- ・ 知り合いがいるのは心強いので、参加者も増え、住民が主体となれるのではないか。
- ・ 市民協働課で資金や人材の情報を取りまとめて、広報する。
- ・ 市民協働課を架け橋として市民同士がつながれると良い。
- ・ 市だからこそ、効率の良い周知で住民同士がつながる場を設けられる。
- ・ 子育てなどの不安を抱えている人も参加できるようなイベントがあると良い。

**** Cチームの発表 ****

Cチームでは、参加のしやすさをみんなに伝えられないということと、資金繰りや場所にあった人材を探したいという課題が出ました。参加のしやすさをみんなに伝えられないというのは、先入観や無関心、視野の狭さでなかなかみんな参加しないので、入りやすい雰囲気作りをしたほうが良いのではないかと、このとみやわくわく市民会議を例にとると、「わくわく」はネーミングとしては良いのだけど、この楽しくみんなが意見を言えるような雰囲気の場合に、「会議」ということで少し硬くなってしまい、特に若者は参加しにくいのではないかとということがあがりました。

また、知り合いが一人いるというのはすごく心強いので、ここに参加している人たちが第一人者となって、自分の知り合いにこういう場があるから行ってみない？と声をかければ、参加する人もどんどん増えて、みんなが主体となっていけるのではないかとということが結論になりました。

資金と人材というところについては、市民協働課が3年前に新設されたということで、市民協働課に協力してもらって、例えばこの地域にはこういう人材がいる、例えば明石台にはこういう人材がいる、富谷の新町のところにはこういう人材がいる、日吉台にはこういう人がいるというのを取りまとめて、場所にあった人材や、こういうところに頼めば資金を支援してくれるというの、広報に載せることによって、市民協働課が架け橋となって住民同士がつながると良いのではないかと思います。そのような情報を取りまとめているのが、市だからこそ、効率的に色々なところに周知できたり、このような場を設けたりすることもできて、住民同士がつながる場も設けられるのではないかと思います。

最近、人口も増えて、新たなコミュニティづくりが始まっているということで、なかなか地域と関わる機会がなくて、子育てなどの面で不安を抱えている方たちとかも参加できるようなイベントがあれば、良いのではないかと結論に至りました。



座長まとめ

Aチームでは、資源を使って、例えば花などを媒介にして、富谷はもっとのびしろがあるというお話がありました。

Bチームでは、「つながり」というキーワード、また、富谷の色々なスイーツやお茶を生かし、楽しめる場が必要ではないかというお話がありました。

Cチームでは、一番印象的だったのは、富谷は参加しやすいということでしたが、でも話をするとまだまだ課題があり、参加者一人ひとりが、情報のハブとなって声をかけていくことが大事だというお話がありました。そして、ネーミングも非常に大事だというのは、分かりやすいのではないかと思います。会議といわれると確かに参加しにくいということで、「わくわく」という形でなるべくハードルを下げていますが、さらにハードルを下げる仕組みというのは市民側と行政側、どちらにも常に求められると思います。

市長感想

短い時間で貴重な意見をたくさんいただきまして、大変ありがとうございました。

今回、富谷市の総合計画を策定するときに、富谷の持つ力とはなんだろうというところから始めました。その時に、富谷の持つ力というのは、やはり「人」だということで、基本構想の頭に、富谷の人のつながり、支え合い、そこから総合計画の策定に入らせていただきました。富谷の持つ力、「人」というのは、全国の色々な地域から、色々な方々が富谷にご縁があって移り住んでいただいております。そして、その方々というのは、素晴らしいキャリアやスキルをもって、この富谷にいるということで、やはり富谷の力は「人」で、その「人」がつながることで、富谷の力が2倍にも3倍にも、そしてそれが点から線になってそれが面に、グループになり、大きな力になっていくと、そこが「富谷の力＝市民協働」だと思っています。行政はいかにそこのお役に立つようにするかといったときに、潤滑油になったり、何か補填するのが行政の役割であって、主役はいつも市民の皆さんだと思っています。今回、市民協働について、ご意見いただいたわけですが、市民の皆さんが立ち上がり、活動しやすい環境をつくっていくルールづくりを令和2年度に向けて策定をしたいと思っています。今日はその上で、大変貴重なご意見をいただきました。また、若い視点で、とみやわくわく市民会議の「会議」が硬いイメージがあるのご意見をいただき、確かにこのネーミングも少し考えたいと思いました。本当に今日はありがとうございました。



富谷市公式キャラクター
ブルベリッ娘とブルビヨ